

II 展覧会

- (1) 企画展 細川護熙 美の世界 1
- (2) 特集展 モノクロームの表現 2
- (3) 企画展 造形作家 玉田多紀 ダンボール物語 3
- (4) 特集展 さとびとみやび 4
- (5) 企画展 横山美術館名品展 明治・大正の輸出陶器（仮称） 5
- (6) 特集展 新収蔵品展 特集展示：藤田嗣治の初期作品 6
- (7) 特集展 ロビー展 岡田健太郎 重なる景体 7

III 教育普及

- (1) 令和5年度実施プログラム 8
- (2) スクールプログラム 8
- (3) 対話による美術鑑賞事業・ボランティア育成 9
- (4) アートカードの貸出 9

IV その他の事業

- (1) 団体向け研修・体験プログラム 10
- (2) 博物館実習生及び職場体験 10

II 展覧会

(1) 企画展 細川護熙 美の世界

種別	企画展
会期	4月8日(土)～6月11日(日)
主催	平塚市美術館
協賛	神奈川中央交通株式会社
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休館日	月曜日
観覧料	一般800円、高大生500円
開催日数	55日
担当	勝山滋(当館学芸担当長)



(左)細川護熙「井戸茶盃 独坐」1999年、(右)「双龍図」2020年

●内容

「晴耕雨読」の生活のなか「閑居」を実践する細川護熙氏(ほそかわもりひろ、1938-)。

評価の高い茶碗や近年幅を広げた水墨画、漆絵、書画、さらに大本山建仁寺の襖絵「瀟湘八景図」、龍安寺の襖絵「雲龍図」奉納に共通するのは、日本文化の源流をさかのぼりそれぞれの精神を極めながら、気どらず理想の世界観を追い求めているところでしょう。

一流の師に教えを乞い、井戸をはじめ信楽、志野、唐津といった作陶に始まる美の世界への貴い探究は、幼いころに祖父が架け替えていた白隠の書と禅画に関心を持ったことに始まり、さらには往時に見た日の出や月、路傍の草花、鳥や虫の声や音楽などに育まれたものであったと述懐します。

護熙氏は60歳を機に政界を引退ののち、湯河原に閑居し作陶。20回に及ぶ個展開催をへて昨年に連年の展覧会を一区切りと定め、国内外の不安定な情勢に目を向けながら、心の赴くまま書物を紐とき、筆を執る生活を企図しています。気ぜわしく、また不安な現代社会にあって、さらに還暦を超えていかに生きがいを見つけていくべきか考えるとき、細川護熙氏の美の探究はある一つの理想の世界観を示しているのではないのでしょうか。本展では、こうした細川護熙氏の美の世界を100点の作品によって紹介します。

●関連事業

○講演会 藤森照信氏(建築家・江戸東京博物館館長)

日時:5月13日(土)14:00～15:00

場所:ミュージアムホール(申し込み不要、定員120名)

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時:①4月15日(土)、②6月10日(土) 各日14:00～14:40

場所:展示室II(申込不要、要観覧券)

(2) 特集展 モノクロームの表現

種 別	特集展
会 期	4月8日(土)～5月28日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休 館 日	月曜日
観 覧 料	一般200円、高大生100円
開催日数	◆日
担 当	家田奈穂(当館学芸員)



三瀬夏之介「空虚五度」(部分) 2012年、当館寄託

●内容

美術作品におけるモノクロームは、単色で表現された絵画のことを指します。写真や映画、テレビにおいてカラーでないものをモノクロということから、一般になじみ深いのは白と黒の表現でしょう。本展では、白から黒への色彩の変化やグラデーションを駆使して内的な世界を具現化したり、モチーフの存在そのものに迫ろうとするなど、各自の表現を追求する8名の作家の作品約30点を紹介します。

田澤茂(1925-2014)は油絵具を用い、現代社会の縮図として魑魅魍魎の世界を描き出しています。銅版画を得意とした渡辺千尋(1944-2009)は幻視した幻想的な世界を細かい線描で表し、伊藤彬(1940-)は木炭や墨により人間の本質にかかわる精神性や宗教観を山水草木に投影して描いています。木下晋(1947-)は鉛筆で、三浦明範(1953-)はシルバーポイントという古典技法によりそれぞれ人間や物質の存在を追究し、藤山貴司(1950-2008)は自身の考える世界創生の物語を木炭やコンテによって紡ぎ出しました。三瀬夏之介(1973-)は私的な感覚に基づく社会への問題提起ともいえる作品を墨によって描き、石井礼子(1974-2019)は日常生活の光景を墨線で描くことで自分自身と向き合いました。

色彩の世界からモノクロームの世界へ移行した作家、ごく一時期だけモノクロームの表現を試みた作家など、取り組み方はそれぞれですが、自身の内面やモチーフそのものを凝視し、色彩を極限までしぼったモノクロームで表現するという手法は、作家に重要な気付きを与えたことでしょう。単色でありながら美しい諧調と豊かな世界観をもつ表現の魅力をお楽しみください。

●関連事業

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：①4月22日(土)、②5月20日(土) 各日14:00～14:30

場所：展示室I ※申し込み不要、要観覧券

(3) 企画展 造形作家 玉田多紀 ダンボール物語

種 別	企画展
会 期	6月24日(土)～9月10日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00 (入場は16:30まで)
助 成	公益財団法人朝日新聞文化財団
休 館 日	月曜日(7月17日は開館)、7月18日(火)
観 覧 料	一般700円、高大生500円
開催日数	66日
担 当	勝山滋(当館学芸担当長)、安部沙耶香(当館学芸員)



玉田多紀「ネオアンモナイト」2015年



玉田多紀「自己愛」2018年



玉田多紀「それを楽しむ」2022年

●内容

「造形作家 玉田多紀 ダンボール物語」を開催します。玉田多紀(たまだたき、1983年兵庫県生)は、多摩美術大学造形表現学部造形学科卒業後、古紙ダンボールを使用し、生き物の造形美や性質をユニークに捉えた立体作品を制作しています。国内外の展覧会やウィンドウディスプレイ、TVメディアや動画配信、ワークショップなど幅広く活動しています。

SDGsが社会のテーマになっている昨今、ダンボールはリサイクルが100%可能な優れた素材として注目を集めています。古紙ダンボールの強度や柔軟性に魅了され、作家は15年以上前からダンボールを素材とした立体作品を制作しています。その制作方法は特徴的で、ダンボールをそのまま使うのではなく、パルプにまで還元し粘土のようにした上で造形していきます。本来であれば捨てられてしまうはずの古紙ダンボールを作品として甦らせ、命を吹き込んでいくのです。また、素材感を損なわないように着彩はせず、ダンボールの色味を活かしています。モチーフとなるのは恐竜やゾウ、キリンやオランウータン、クジラなど様々ないきものです。

近年では絶滅危惧種をモチーフとして生態系の環境問題に目を向け、ジェンダーギャップなど現代社会を象徴とする問題を生き物の視点で捉えて表現しています。また、作家は来館者に見るだけでなく、体験しながら鑑賞できる作品作りを心掛けています。

関東地方の公立美術館で初めての個展となる本展は、陸上から海中まで様々ないきものの作品約80点を展示します。玉田多紀の生命力あふれるダンボールのいきものたちを是非お楽しみください。また、本展を通じて環境問題についても目を向けるきっかけとなりますと幸いです。

●関連事業

○玉田多紀氏によるアーティストトーク

日時：6月24日(土)、8月19日(土) 14:00-14:40

場所：展示室I ※申込不要、要観覧券

○玉田多紀氏によるワークショップ

詳細未定 会期中2回程度

○スタンプラリー(予定)

(4) 特集展 さとびとみやび

種別	特集展
会期	6月24日(土)～9月3日(日)
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休館日	月曜日(ただし7月17日(月・祝)は開館)、7月18日(火)
観覧料	一般200円、高大生100円
開催日数	60日
担当	桑名真吾(当館学芸員)



小林保祥《高砂族の生活》1940-45年



濱谷浩《雲と波と雪と家》1955年



藤田昭子《出縄》の野焼き、1977年

●内容

本展は、地方(さとび)と都市(みやび)を主題とした作品と、地方と都市の中間に位置する湘南地方で制作した作家たちを紹介するものです。湘南地方は明治期以降に開発が進み、都市住民の療養地、避暑地として発展し、その海岸の美しいイメージに誘われ、芸術家たちはこぞってアトリエを構えました。彼らの多くは、都市の不安や騒がしさに満ちた生活から逃れようとした移住者でした。

人々は古代から、ここではないどこか、失われた原風景を求めて、理想的な生活を夢見ていました。都市は精神的不安定に満ちたもの、地方は心の豊かさや静かな生活を与えてくれるという考え方は、古代ローマの時代から存在しています。ひるがえって、湘南という土地の名もまた、日本における桃源郷イメージの原型ともいえる、中国の「瀟湘」(長江の流域)に由来しています。湘南地方は都市生活者が思い描く近代化以前の原風景として、我々の伝統的な考え方と結びついて生まれたユートピアと言えるでしょう。

4章からなる本展では、萬鉄五郎や岸田劉生を初めとする湘南で創作した春陽会の画家や、彫刻家・保田春彦とともに故郷イタリアを離れ、湘南の地で生きたシルヴィア・ミニオ＝パルウエルオ・保田のドローイング、台湾の先住民文化に取材し、文化人類学研究的傍らで理想化された共同体を描いた小林保祥を特集します。

また、人間が取り戻すべき原風景を表現し続けた、平塚市を拠点とする造形作家・藤田昭子の作品と資料を紹介します。藤田は、「野焼き」と呼ばれる、窯を使わずに野外で粘土を焼く制作方法で、湘南の地に世界最大級のやきもの《出縄》(1975年)を出現させました。70年代のコミュニケーション運動に呼応し、「人間らしい空間」の創造をかかげた藤田による集団での創作行為には、人間を疎外する都市生活に抗い、原始的な建築や共同体を生み出そうとする意志が一貫しています。

都市と地方の中間で生きることが理想化され、その価値が見直されている現在、本展が地方と都市の関係について考え、そして湘南の地で生き、創造することの多様な側面を考える機会になれば幸いです。

●関連事業

○学芸員によるギャラリートーク

2023年7月1日(土)14時～14時45分

2023年8月27日(日)14時～14時45分

平塚市美術館 展示室Ⅱ

※申込不要、要観覧券

○講演会「湘南の誕生」

講師：増淵敏之（法政大学大学院政策創造研究科教授）

2023年7月29日（土）14時～15時

平塚市美術館 ミュージアムホール

※要事前申込

（5）企画展 横山美術館名品展 明治・大正の輸出陶器（仮称）

種別	企画展
会期	10月7日（土）～11月26日（日）
主催	平塚市美術館
特別協力	横山美術館（予定）
開館時間	9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日	月曜日（祝日の場合は開館、翌火曜日休館）
観覧料	未定
開催日数	44日
担当	家田奈穂（当館学芸員）

●内容

このたび、平塚市美術館では「横山美術館名品展 明治・大正の輸出陶磁器 日本の陶工、世界で競う」（仮称）を開催いたします。

明治時代には、政府が推進する殖産興業、輸出振興政策により、日本の陶磁器が欧米を中心に積極的に輸出されるようになりました。その背景には、日本の陶磁器が19世紀後半から欧米でたびたび開催された万国博覧会において高い評価を得ていたことが挙げられます。

欧米の人々の好みにあうよう製作された東洋的なモチーフと精緻な技巧を備えた絢爛豪華な陶磁器は、ジャポニスムの気運を高めるとともに欧米のやきものと相互に影響しあいながら、後のアール・ヌーヴォー、アール・デコへと展開する端緒となりました。

神奈川県内でも、1859（安政6）年の横浜開港により、従来、窯がなかった横浜で陶器生産がはじまり、京都から移り住んだ宮川香山が眞葛焼を試みて好評を博しました。香山の技巧を凝らした陶器からは、全力を尽くして世界に挑戦していた明治の陶工の気概が見て取れます。ほかにも素地を産地から取り寄せて横浜で上絵付を施す工場が多数でき、輸出港ならではの賑わいをみせました。

本展は、輸出陶磁器の全盛期である明治時代前半に海外へ輸出された日本各地の陶磁器の里帰り品を皮切りに、明治30年代以降のアール・ヌーヴォー、アール・デコに代表される新しい意匠やデザインを取り入れた作品を、横山美術館の名品約140点によりご紹介するものです。

●関連事業

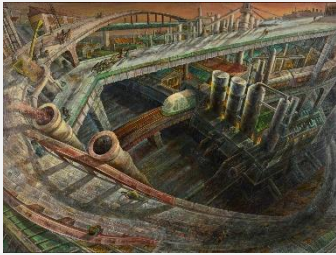
○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：会期中2回 各日14:00～14:30

場所：展示室Ⅱ

(6) 特集展 新収蔵品展 特集展示：藤田嗣治の初期作品

種 別	特集展
会 期	9月23日(土)～2024年2月18日(日)
主 催	平塚市美術館
助 成	タカシマヤ文化基金
開館時間	9:30～17:00(入場は16:30まで)
休 館 日	月曜日、(10月9日、2024年1月8日、2月12日は開館し、翌火曜日休館)、年末年始(12月29日～1月3日)
観 覧 料	一般200円、高大生100円
開催日数	123日
担 当	江口恒明(当館学芸員)、安部沙耶香(当館学芸員)



遠藤彰子《岐路》1984年



内田あぐり《わたしの前にいる、目を閉じている #09T》2009年

●内容

平塚市美術館では作品収集の活動を継続的におこなってきました。本展では2021年度と2022年度に新たに収蔵された作品約30点を展示いたします。いずれも湘南地域にゆかりのある作家や企画展などをきっかけに寄贈・寄託となった作品です。

内田あぐり《わたしの前にいる、目を閉じている #09T》は「湘南と作家Ⅱ」(2011年)に出品されました。人体の表現を追求してきた作家が、具体的なイメージを解体し、画材の物質性や偶然にできる色や形を画面にあらわそうとしたシリーズの1点です。また、遠藤彰子《岐路》は「物語る 遠藤彰子展」(2021年)に出品された作品です。魚眼レンズのような広い視覚で見る風景は、都市風景を描いた一連の作品に数えられます。

このほか、島田章三や高良眞木など湘南地域にゆかりのある作家の作品が収蔵されました。おなじみの作家の新たな顔ぶれをお楽しみいただければ幸いです。

さらに、展示室内に特集コーナーを設け、2018年度に寄託を受けた藤田嗣治の油彩画《おことさん》を1993年の企画展「湘南の美術と文学」以来30年ぶりに公開し、その関連作品も展示します。本作品は藤田が東京美術学校在学中に描いたもので、画業の最初期における貴重な作例といえます。タカシマヤ文化基金の助成を得て修復処置と光学的調査をおこなった成果とともに紹介いたします。

●関連事業

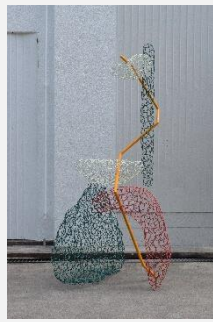
○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：会期中2回 各日14:00～14:30

場所：展示室Ⅱ

(7) 特集展 ロビー展 岡田健太郎 重なる景体

種 別	特集展
会 期	12月5日(火)～2024年4月7日(日)
主 催	平塚市美術館
開館時間	9:30～17:00
休 館 日	月曜日(ただし1月13日(月・祝)、2月24日(月・祝)は開館)、1月14日(火)、 2月25日(火)、年末年始(12月29日(金)～1月3日(水))
観 覧 料	無料
開催日数	102日
担 当	桑名真吾(当館学芸員)



岡田健太郎《Auto reverse II》2016年 岡田健太郎《Plantronica II》2018年 岡田健太郎《月と水脈、地下》2021年

●内容

当館では、湘南を拠点として現在活躍する彫刻家・岡田健太郎の個展「岡田健太郎展 重なる景体」を開催いたします。

岡田健太郎は1977年に岡山県に生まれ、79年に横浜市・本牧へ移り、武蔵野美術大学で彫刻を学びました。近年は第17回KAJIMA彫刻コンクール、第28回UBEビエンナーレに入賞し、いま注目される彫刻家のひとりです。

大学卒業後、御影石を使用し、棺をモチーフとする作品を制作していた作家は、その後、より柔軟な素材を探すなかで、金属製の棒をペレット状に切断、溶接する方法を見出し、五角形を単位とする有機的なかたちにとどり着きます。軽やかさを追求した結果として生まれる作品は卵のようになだらかな曲線をし、サイズの異なる複数のオブジェが重なりあいます。作家がかつて取り扱っていた丸みを帯びた石彫彫刻を想起させると同時に、籠のようなペレットの網の目の中に、何もない閉じた空間が立ち現れます。風や光など、作品が周囲の環境の変化に影響されることによって、物の外側・内側についての意識を揺り動かすような感覚を与えることでしょうか。

本展は、湘南の陽光がふりそそぐテーマホールの大きな空間で、新しい表現を紹介する「ロビー展」として開催されます。17回目となる今回は、新たに制作される3メートル超の作品をはじめ、近作からこれまでの活動を振り返ります。石を鑿で削るように一定のリズムで打たれたペレットの集合体によって、緩やかに事物の境界線が刻み込まれた空間をご体感ください。

●関連事業

○アーティストトーク

日時：会期中3回

○ワークショップ

日時：会期中3程度

Ⅲ 教育普及

(1) 令和5年度実施プログラム

14プログラム実施予定

担当：江口恒明(当館学芸員)、品川ちひろ(当館会計年度任用職員)、浅野泰恵子(当館会計年度任用職員)

NO	講座名	講師	実施日	材料費	対象	参加者数
1	体験アートセラピー 親子でパステルワーク～笑顔のカードを作ろう～	福山恵美子(アートセラピスト)	4月15日(土)	200円	親子(小・中学生)	未定
2	キッズアートピクニック 5月	富田めぐみ※	未定	1組500円	親子(2～4歳)	未定
3	對木裕里氏によるワークショップ	對木裕里(彫刻家)	5月7日(日)	未定	未定	未定
4	赤ちゃんアートピクニック 6月	富田めぐみ※	未定	1組500円	親子(1～2歳)	未定
5	東海大学協働事業 デッサン教室 所蔵彫刻作品を描いてみよう!	東海大学教員	未定	500円	中学生～一般	未定
6	おうちの窓を天の川にしよう! 星とカササギの七夕モビールづくり	依田梓(美術家)	6月17日(土)	600円	親子(4歳～小学生)	未定
7	バックヤードツアー	当館学芸員	未定	無料	未定	未定
8	玉田多紀展関連ワークショップ①	玉田多紀氏	未定	未定	一般	未定
9	キッズアートピクニック 7月	富田めぐみ※	未定	1組500円	親子(2～4歳)	未定
10	玉田多紀展関連ワークショップ②	玉田多紀氏	未定	未定	子ども	未定
11	赤ちゃんアート・ピクニック 8月	富田めぐみ※	未定	1組500円	親子(1～2歳)	未定
12	中高生ボランティアによるワークショップ①	中高生ボランティア	8月5日(土)	無料	小学生	未定
13	中高生ボランティアによるワークショップ②	中高生ボランティア	8月13日(日)	無料	小学生	未定
14	キッズアートピクニック 9月	富田めぐみ※	未定	1組500円	親子(2～4歳)	未定

※NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会代表理事

(2) スクールプログラム

児童・生徒向けプログラム 1プログラムを実施予定 ※依頼を受け次第実施

教員向けプログラム 3プログラムを実施予定 ※依頼を受け次第実施

担当：江口恒明(当館学芸員)、品川ちひろ(当館会計年度任用職員)、浅野泰恵子(当館会計年度任用職員)

NO	講座名	講師	実施日	対象	参加者数
1	平塚市立小学校教育研究会 図画工作部研修	当館学芸員	6月中旬	平塚市内小学校教員図画工作部所属教員	未定
2	教員向け 対話による美術鑑賞体験	当館学芸員	7月27日(木)	小・中・高・特別支援学校の教職員	未定
3	中学・高校生のワークショップボランティア	当館学芸員	8月3日(木) 8月5日(土) 8月13日(日)	中高生	未定
4	教員向け実技講座	玉田多紀氏	8月8日(火)	小・中・高・特別支援学校の教職員	未定

(3) 対話による美術鑑賞事業・ボランティア育成

対話による美術鑑賞授業 令和5年4月に希望校を募集し依頼を受け次第実施予定

担当：江口恒明(当館学芸員)、浅野泰恵子(当館会計年度任用職員)

NO	学校名	準備日	学校実施日 (事前授業日)	来館授業日	学年	クラス数	参加人数
	未定						

事前授業のみの授業も実施します。授業の実施はひらびあ一つま〜れのメンバーが担当します。

● ボランティア育成のための研修等を実施します。

対話による美術鑑賞ボランティア(ひらびあ一つま〜れ)8期生の育成、及び新規加入の9期生20名程度の育成を実施予定です。また、9期生募集のための体験会、ボランティア同士の交流やミーティングを目的としたひらびあcaféを実施します。

7プログラム実施予定

NO	講座名	講師	実施日	参加人数
1	8期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	4月8日(土)	未定
2	8期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	5月12日(金)	未定
3	9期募集体験会1回目	当館学芸員	6月中旬	未定
4	9期募集体験会2回目	当館学芸員	6月下旬	未定
5	8期実践研修	三ツ木紀英 (ARDA)	6月30日(土)	未定
6	9期基礎研修1回目	三ツ木紀英 (ARDA)	9月9日(土)	未定
7	9期基礎研修2回目	三ツ木紀英 (ARDA)	9月16日(土)	未定

(4) アートカードの貸出

平塚市美術館を代表する所蔵作品48点のカードと遊び方の説明書を合わせたアートカードセットを、学校向け教材として無料貸出を行います。

IV その他の事業

(1) 団体向け研修・体験プログラム

要望があれば実施してまいります。

(2) 博物館実習生及び職場体験

●博物館実習生の受け入れ

当館の活動に携わることで学芸員の職務を理解することを目的として、美術を専攻する博物館学実習生を受け入れ、6月から12月まで実習を実施します。

●中堅教諭等資質向上研修 社会体験研修の受け入れ。

●中学生職場体験及び高校生等の受け入れ

(4) 所蔵作品データベースの公開

WEB上に公開している所蔵作品のデータベースについて、今後も画像データを充実させてまいります。

日本語サイト：<https://jmapps.ne.jp/hiratukabi/>

英語サイト：https://jmapps.ne.jp/hiratukabi_en/